<H17-6-A：問題>

次の文は、地図投影法について説明したものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 図法の性質の三要素である正距、正角、正積の三つの条件を同時に満足させることは、理論上不可能である。

2. 正距図法では、地球上のあらゆる地点間の距離を同一の縮尺で平面上に表示することは、理論上不可能である。

3. 正角図法では、地球上の任意の二方向に引いた方向線のなす角と、地図上のこれに対応する角とが等しくなる。

4. 正積図法では、地球上の任意の範囲の面積が、同一の比率で地図上に表示される。

5. 地図上において、正距図法と正積図法の性質を同時に満足させることは、理論上不可能である。

 © Matsubara P.O

〈H17-6-B：問題〉

次の文は、地図編集の転位の原則について述べたものである。地図編集では、精度保持の観点から以下の原則を理解して作業を行う必要がある。 ア ～ エ に入る語句の組合せとして最も適切なものはどれか。次の中から選べ。

a.　三角点及び ア は、原則として真位置に描画する。

b.　自然地物と人工地物が近接する場合には、原則として イ を転位する。

c.　有形線と無形線が重複または近接する場合には、 ウ を転位する。

d.　骨格となる地物(道路、鉄道、海岸線)においては、 エ を優先して真位置に描画する。

	ア	イ	ウ	エ
1.	水準点	人工地物	無形線	道 路
2.	水準点	自然地物	有形線	海岸線
3.	電子基準点	自然地物	有形線	鉄 道
4.	電子基準点	人工地物	無形線	海岸線
5.	電子基準点	人工地物	有形線	道 路

<H17-6-C：問題>

図６－１は、国土地理院発行の１／25,000 地形図の一部(原寸大、一部を改変)である。
次の文は、この図に表現されている内容について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。
なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

1. 護国神社のある地点の標高は、およそ 50 ｍである。

2. 市役所のある地点の標高と、函館山山頂の三角点の標高との差は、およそ 330 ｍである。

3. ロープウエイの傾斜角は、山麓の駅と山頂の駅の間で平均すると、およそ 10 度である。

4. 消防署から保健所までの水平距離は、およそ 1.9 ｋｍである。

5. 自衛隊のある地点の緯度と、函館山山頂の三角点の緯度との差は、およそ 32 秒である。

図６－１

<H17-6-D：問題>

次の文は、地理情報システム（ＧＩＳ）に用いられる空間データについて説明したものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 地理情報標準は、空間データの互換性を確保するために必要な事項について規定している。

2. 空間データを異なる機関が相互に利用することにより、空間データ整備の重複投資の排除が期待できる。

3. メタデータは、空間データの所在、内容、利用条件などが記述され、クリアリングハウスで検索することができる。

4. 全ての空間データは、国土地理院が定めた唯一のデータの書式に従い作成されなければならない。

5. 空間データの品質評価の結果を表示することで、他者がその空間データを利用できるか判断することが容易になる。